

名 称	令和4年度 河川現地視察会		
実施日	令和4年11月11日(金)	実施場所	国) 荒川上流河川事務所管内 (古谷樋管工事、平塚新田築堤護岸復旧工事)
参加者数	35名 (会員23名 (18社)、国交省関東地方整備局12名 (8事務所)) 他、事務局として、河川専門委員会委員5名、関東地方整備局河川部2名、荒川上流河川事務所2名、戸田建設2名		

実施目的

河川事業を取り巻く環境は、毎年のように発生する洪水被害等に対し、再度災害防止の観点から安全で高品質な社会資本整備の実現が求められています。災害復旧、治水施設の調査・計画、設計、施工管理などの河川事業を円滑に進めて行くには、技術者が現場のイメージを持つことが重要であります。

こうした中、河川事業の担い手不足や若手技術者に対する技術継承が課題となっていることから、官民一体となり技術者育成を行うことを目的とする。

実施概要

1. 開催概要

視察会の候補箇所として、建コン河川委員が設計業務を担当した現場で、工事が進行中の古谷樋管および周辺の災害復旧現場を提案し、実施することになった。

現地視察会前の10月14日に「河川技術の向上に関する講習会」を実施しており、その中で、樋管設計、仮設設計の講習会を行い、古谷樋管の現地視察会と併せてより理解を深めていただく企画とした。

建コン関東支部 河川現場視察会 行程

到着時刻	視察箇所等	出発時刻	備考
12:30	関東地方整備局2Fロビー(受付)	13:00	局2Fロビーで受付後、各自入館証を受取り、局会議室へ
↓			
13:00	関東地方整備局会議室【視察概要説明】	13:30	
↓	移動(一般道路⇒古谷樋管現場へ) 約30分		
14:00	古谷樋管工事(二重締切り施工)	15:00	現地で下車後、二重締切り上および周辺を視察
↓	移動(工食用道路走行) 約30分		
15:30	入間川堤防決壊箇所(平塚新田)現場視察	16:00	
	移動(一般道) 約50分		
17:00	JR川越駅(解散)		

2. 現地視察内容

①関東地方整備局：2Fロビーにて受付を行い、その後、16階の会議室へ移動し、当日の工程及び留意事項の説明を行った。

②古谷樋管現地視察：古谷樋管の工事現場にて、設計概要、堤防開削工事の概要について、建コン河川委員会庄司委員及び上野委員より説明を行った。その後、二重締切天端を徒歩で移動、中間地点及び終点地点で再度説明を行った後、二重締切り下部の仮設樋管の視察を行い、設計概要の説明および質問を受け付けた。

③越辺川決壊箇所(平塚新田)：越辺川右岸決壊箇所にて、決壊要因や、災害の状況説明、災害当日の荒川上流河川事務所の応急復旧対応状況から本復旧に至る工事説明、資材の調達等について、荒川上流河川事務所職員から説明を受け、質疑応答を行った。



古谷樋管の現地視察状況



越辺川決壊箇所（平塚新田）の現地視察状況

3. アンケート結果

現地視察会終了後に、現地視察会の内容についてアンケートをWeb方式で実施した。

- ・参加者は、実務経験が5年未満が約70%と最も多かった。
- ・参加者の所属部門は、「河川－構造系」が約70%（23名中16名）と最も多く、その他は「河川－計画系」、「砂防」、「土質」がそれぞれ2名、「その他」が1名であった。
- ・現地視察会への参加経緯は、「樋管工事の現場状況に興味があった」が最も多く、続いて「堤防結果、災害復旧対応、築堤護岸等に関して全般な内容に興味があった」、「上司の勧めで参加した」が同数で多かった。
- ・ノウハウ講習会とあわせた現地視察会の実施については、「講習会等、別の取組とあわせると視察会の内容の理解が進む等メリットが感じられる」との回答が約52%と最も多かったが、一方、「講習会に参加していないためわからない」との回答が約43%あった。
- ・今後の現地視察会に関する意見、要望については、「施工状況を見学できるのは設計上非常に参考になる」「見学の機会はすくないので、とても勉強になる」、「他河川の治水や災害復旧の現場視察を次回は開催してほしい」との意見と「マイク音量を大きくしてほしい」、「現場にてグループに分け、各開催者による説明をそれぞれで行った方が、聞きやすく理解しやすくなる感じた。」との要望もあった。
- ・古谷樋管工事現場説明については、「大変参考になった」、「適当である」の回答のみで、講習時間についても、「適当だった」との回答のみであった。感想については、現場を見られる機会が少ないため貴重な経験であることから、肯定的な意見が多かった。
- ・入間川堤防決壊箇所（平塚新田）工事現場説明については、「大変参考になった」、「適当である」が多かったが、「わかりにくかった」が2名、「その他」が3名あった。「その他」の内容については、「説明が聴こえなかった」、「聴き取りづらかった」、「途中から声が聞こえていなかった」との回答であった。感想については、被災時の状況から、大規模災害現場の被災当時の状況から災害復旧までの状況を現場で見聞きできたことに対して、肯定的な意見が多かった。
- ・以上より、本現地視察会の内容は十分に役立つものであったと評価される。